

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成30年3月29日(2018.3.29)

【公表番号】特表2017-515209(P2017-515209A)

【公表日】平成29年6月8日(2017.6.8)

【年通号数】公開・登録公報2017-021

【出願番号】特願2016-559345(P2016-559345)

【国際特許分類】

G 06 F 3/14 (2006.01)

G 06 F 3/0484 (2013.01)

【F I】

G 06 F 3/14 3 5 0 B

G 06 F 3/0484

【手続補正書】

【提出日】平成30年2月16日(2018.2.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ある幅を有するユーザインターフェイス内のアプリケーションキャンバスに関連してペインを自動的に管理する方法であって、

前記アプリケーションキャンバスのための最小幅の指示をアプリケーションから受信することと、

前記アプリケーションの前記ユーザインターフェイス内に選択された持続的ペインを追加するリクエストを受信することであって、前記選択された持続的ペインは、1つまたは複数の以前に開かれた持続的ペインとともに表示され、

前記アプリケーションキャンバスが少なくとも前記最小幅で表示されることを確保するために、前記以前に開かれた持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインの表示を管理することと

を備え、

前記ユーザインターフェイスが、前記以前に開かれた持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインの両方を、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバスに加えて表示するために十分な幅を有さないとき、少なくとも一つの前記以前に開かれた持続的ペインにより占有されていた前記ユーザインターフェイスの領域を解放するように、少なくとも一つの前記以前に開かれた持続的ペインを一時的ペインに変換し、前記選択された持続的ペインを前記ユーザインターフェイスの前記解放された領域内に配置し、前記アプリケーションキャンバスの前記最小幅を維持する、

コンピュータにより実装される方法。

【請求項2】

前記選択された持続的ペインを追加するリクエストが受信されるとともに、以前に開かれた持続的ペインは表示されておらず、前記以前に開かれた持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインの表示を管理することが、

前記ユーザインターフェイスが、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバスおよび前記選択された持続的ペインの両方を表示するのに十分な幅を有していないとき、前記選択された持続的ペインを一時的ペインとして前記アプリケーションキャ

ンバスの一部分の上に表示すること
を更に備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記アプリケーションキャンバスの幅は、前記一時的ペインを表示するときに変化しない

請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記選択された持続的ペインがフォーカスを失うときに、前記選択された持続的ペインを非表示にすること
を更に備える請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記選択された持続的ペインを追加するリクエストが受信されるとともに、1つの以前に開かれた持続的ペインが前記ユーザインターフェイスに表示されており、前記以前に開かれた持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインの表示を管理することが、

前記アプリケーションと関連付けられた持続的ペインは重要ペインであるという指示を前記アプリケーションから受信することと、

前記以前に開かれた持続的ペインは前記重要ペインであると判定することと、

前記ユーザインターフェイスが、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバス、前記重要持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインを表示するのに十分な幅を有していないとき、前記重要持続的ペインを自動的に閉じることと、

前記選択されたペインを持続的ペインとして表示することと、

前記選択された持続的ペインが閉じられたとき、前記自動的に閉じられた重要持続的ペインを、自動的に再び開くことと

を更に備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記選択された持続的ペインを追加するリクエストが受信されるとともに、2つ以上の以前に開かれた持続的ペインが前記ユーザインターフェイスに表示されており、前記以前に開かれた持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインの表示を管理することが、

前記ユーザインターフェイスが、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバス、前記以前に開かれた持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインを表示するのに十分な幅を有していないとき、前記以前に開かれた持続的ペインのうちの1つを前記選択された持続的ペインで置き換えること

を更に備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記以前に開かれた持続的ペインが開かれた順序に基づいて、前記以前に開かれた持続的ペインそれぞれの優先度を判定すること

を更に備える、請求項 6 に記載の方法。

【請求項 8】

1つまたは複数の以前に開かれた持続的ペインが表示されている間に前記ユーザインターフェイスの前記幅が変化したという指示が受信され、前記ユーザインターフェイスの幅が減少されて前記ユーザインターフェイスが、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバスおよび前記以前に開かれた持続的ペインを表示するのに十分な幅を有しておらず、前記以前に開かれたペイン持続的および前記選択された持続的ペインの表示を管理することが、

前記アプリケーションキャンバスが少なくとも前記最小幅で表示されることを可能とするために十分な数の以前に開かれた持続的ペインを自動的に閉じること
を更に備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

以前に開かれた持続的ペインを自動的に閉じた後、前記ユーザインターフェイスの前記幅が増加したという指示を受信することと、

前記ユーザインターフェイスが、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバスおよび前記自動的に閉じた持続的ペインを表示するのに十分な幅を有しているとき、前記自動的に閉じた持続的ペインを自動的に再び開くこととを更に備える、請求項8に記載の方法。

【請求項10】

前記ユーザインターフェイスが、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバス、任意の以前に開かれた持続的ペインおよび前記選択された持続的ペインの両方を表示するのに十分な幅を有しているとき、前記選択された持続的ペインを持続的ペインとして前記アプリケーションキャンバスの一方側に表示すること、を更に備える、請求項1に記載の方法。

【請求項11】

前記選択された持続的ペインを持続的ペインとして表示することは、前記アプリケーションキャンバスの幅を前記選択された持続的ペインの幅だけ減少させることを更に備える、請求項10に記載の方法。

【請求項12】

前記一時的ペインは、ユーザが前記一時的ペインの外のエリアにフォーカスを移すまで消えずに残る

請求項1に記載の方法。

【請求項13】

ユーザインターフェイス内のアプリケーションキャンバスに関連してアプリケーションペインを自動的に管理するためのコンピュータにより実装されるシステムであって、

プロセッサと、最小キャンバスサイズメモリと、視覚的出力をユーザに提示するための出力デバイスとを備え、前記視覚的出力はアプリケーションの前記ユーザインターフェイスを備える、コンピューティングデバイスを備え、前記コンピューティングデバイスが、

前記アプリケーションから保護されたキャンバスサイズを受信し、

前記保護されたキャンバスサイズを前記最小キャンバスサイズメモリに記憶し、

新しいアプリケーションペインを開くリクエストに応答して、どの以前に開かれた持続的アプリケーションペインを表示するかを、前記記憶された保護されたキャンバスサイズに基づいて判定し、どの以前に開かれた持続的アプリケーションペインを一時的ペインとして表示するかを判定し、

前記ユーザインターフェイスが、前記以前に開かれた持続的ペインおよび前記新しいアプリケーションペインを、前記最小幅を少なくとも有する前記アプリケーションキャンバスに加えて表示するために十分な幅を有さないとき、少なくとも一つの前記以前に開かれた持続的ペインにより占有されていた前記ユーザインターフェイスの領域を解放するようにな、少なくとも一つの前記以前に開かれた持続的ペインを一時的ペインに変換し、前記新しいアプリケーションペインを前記ユーザインターフェイスの前記解放された領域内に配置し、前記アプリケーションキャンバスの前記最小幅を維持する、

ように動作可能である、システム。

【請求項14】

前記コンピューティングデバイスが、全ての現在開かれている持続的アプリケーションペインおよび任意のリクエストされた持続的アプリケーションペインのサイズから、総ペインサイズを計算するように更に動作可能である、請求項13に記載のシステム。

【請求項15】

前記保護されたキャンバスサイズと前記総ペインサイズとの組み合わせが前記ユーザインターフェイスサイズよりも大きいとき、前記保護されたキャンバスサイズと前記総ペインサイズとの組み合わせが前記ユーザインターフェイスサイズ以下になるまで、前記コンピューティングデバイスが、最も優先度の低い前記現在開かれている持続的アプリケーションペインを自動的に閉じるように更に動作可能である、請求項14に記載のシステム。

【請求項16】

前記ユーザインターフェイスサイズと前記保護されたキャンバスサイズおよび前記総ペ

インサイズの組み合わせとの間の差が、最も優先度の高い自動的に閉じられた持続的アプリケーションペインのサイズよりも大きいとき、前記コンピューティングデバイスが、前記最も優先度の高い自動的に閉じられた持続的アプリケーションペインを自動的に再び開くように更に動作可能である、請求項1_4に記載のシステム。

【請求項17】

前記コンピューティングデバイスが、前記アプリケーションから持続的重要なペインの識別子を受信するように更に動作可能である、請求項1_4に記載のシステム。

【請求項18】

前記一時的ペインは、ユーザが前記一時的ペインの外のエリアにフォーカスを移すまで消えずに残る

請求項1_3に記載のシステム。

【請求項19】

コンピュータによって実行されたとき、ユーザインターフェイス内のアプリケーションキャンバスに関連してペインを自動的に管理する方法を行うコンピュータが実行可能な命令を含むコンピュータ可読媒体であって、前記方法が、

前記アプリケーションキャンバスのための最小サイズの指示をアプリケーションから受信することと、

先行度、最近度および重要度のうちの1つまたは複数に基づいて、各ペインの優先度を判定することと、

前記ユーザインターフェイスが1つまたは複数の現在開かれている持続的ペインを含み、前記ユーザインターフェイスが前記最小サイズを少なくとも有する前記アプリケーションキャンバスおよび前記現在開かれている持続的ペインの全てを表示するのに十分なほどに大きくはないとき、

最も優先度の低い前記現在開かれている持続的ペインのうちの1つまたは複数を自動的に閉じて前記最小サイズを少なくとも有する前記アプリケーションキャンバスを表示するのに十分な空間を提供することと、

(a) 追加的な持続的ペインが開かれるように選択され、(b) 前記ユーザインターフェイスが1つまたは複数の現在開かれている持続的ペインを含み、(c) 前記ユーザインターフェイスが、前記最小サイズを少なくとも有する前記アプリケーションキャンバス内に、前記現在開かれている持続的ペインの全ておよび前記追加的なペインを表示するのに十分なほどに大きくはないとき、

少なくとも一つの前記以前に開かれた持続的ペインにより占有されていた前記ユーザインターフェイスの領域を解放するように、少なくとも一つの前記以前に開かれた持続的ペインを前記アプリケーションキャンバスの上に浮く一時的ペインに変換し、前記選択された追加的な持続的ペインを前記ユーザインターフェイスの前記解放された領域内に配置し、前記アプリケーションキャンバスの前記最小サイズを維持する、

を備える、コンピュータ可読媒体。

【請求項20】

前記一時的ペインは、ユーザが前記一時的ペインの外のエリアにフォーカスを移すまで消えずに残る

請求項1_9に記載のコンピュータ可読媒体。